

エゾシカ被害対策の推進

計画保全部 保全課

北海道森林管理局では、エゾシカによる農林業被害等の軽減に向け、狩猟者への対応と、自ら又は自治体との連携による捕獲事業に取り組んでいます。

【エゾシカによる被害】

北海道内のエゾシカによる農林業被害額は、ピーク時よりは減少しているものの近年は、横ばいからやや増加傾向となっています。

森林への影響については、雄シカの生え変わった角を樹皮に擦りつける角こすり（写真1）や、植物の食害



写真1 角こすり（トドマツ）

（写真2）などが起こっており、森林の管理や森林生態系への影響が懸念されています。



写真2 食害（ノリウツギ）

【職員による捕獲の実施】

近年、狩猟者の高齢化、後継者不足と言われている中、国有林の管理を行う者として、職員自ら「くくりワナ」を使用した捕獲に取り組んでいます。昨年度は、稚内市で実施し、宗谷森林管理署以外からも多くの職員が参加し、3週間で12頭捕獲しました。

実際にワナを仕掛けていく中で、どういう箇所でワナを仕掛けるのが効果的か、冬期間のワナ本体の凍結をどう解決するかなど、有識者の方々からアドバイスをいただきながら、経験を積み重ねているところです。（写真3、4、5）



写真3、4 職員によるくくりワナ設置の様子



写真5 くくりワナで捕獲したエゾシカ

【自治体等との連携による捕獲】

エゾシカの越冬場所は判っているものの、積雪等で駆除者が現地に行けないというケースも多く、そのような場合、自治体と連携し、森林管理署が林道除雪と工サによる誘引を、自治体が捕獲を実施する取組を行っています。

また、シビエ活用が可能な地域においては、囲いワナによる生体捕獲を展開しており、資源の有効活用も進めています。（写真6、7）



写真6 囲いワナ（ドローンで撮影）



写真7 捕獲されたエゾシカ

【エゾシカの影響調査】

北海道森林管理局においては、職員が業務の一環としてエゾシカの簡易影響調査を行っています。日々の業務として、森林の管理を行っているなかで発見するエゾシカの被害状況などを記録し、取りまと

めることで、北海道全体のシカの影響を把握する取り組みを行っています。全道各地に職員がいる森林管理局だからこそ収集できる情報を積み重ね、関係機関と情報を共有し、エゾシカ被害対策を進めています。(図1)

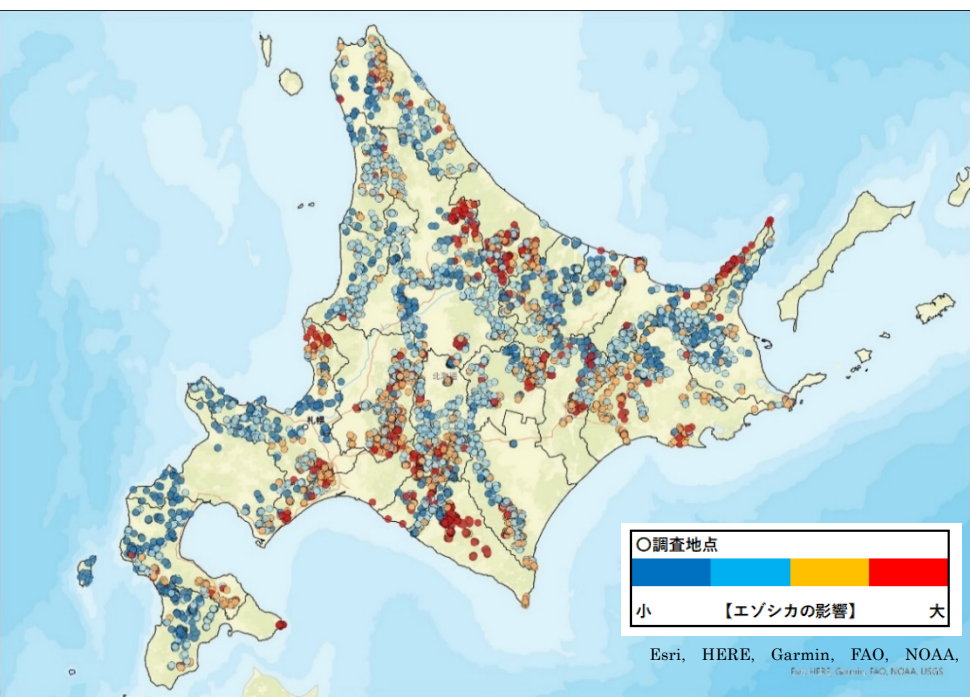


図1 エゾシカの簡易影響調査（令和元年度、令和2年度実績）

【情報通信技術を利用したエゾシカ対策】

エゾシカの生息状況や被害を把握するうえで、自動撮影カメラは非常に有効な手段となっています。

近年では、撮影した写真を通信回線で転送し、インターネット上で写真を取得することができず。

また、数百、数千枚となる写真からエゾシカが写っているデータを一枚ずつ確認するには、膨大な時間と

労力がかかることから、北海道森林管理局では、AI技術を活用し、エゾシカの判別ができるように取り組んでいます。(写真8、9)

多くの職員が写真データを収集し、AIに学習させることで、精度の高い判別が可能となります。

エゾシカ被害対策は非常に重要な課題です。限られた時間、人員で取り組めるように、引き続き省力化に努めていきます。



写真8 AIでのエゾシカ判別（数値はエゾシカの確率）



写真9 エゾシカ以外にも森の動物が色々写っています

【おわりに】

北海道森林管理局では、今年度の重点取組事項として「野生鳥獣による被害の低減に向けた取組」を掲げています。

農作物だけでなく森林内に発生する若木も食べてしまうエゾシカの増加は、適切な森林の管理を進めていく上で大きな支障となります。

国有林に集まってくるエゾシカを如何に効率的に捕獲するかが、地域の農業だけではなく林業にとっても重要となっています。

目標とする森林づくりのため、地元市町村等と連携し、エゾシカ被害の低減に向け地道に取り組んでいく考えです。

※注意喚起

先日、厚岸町の国有林で大量のエゾシカ残滓の不法投棄が見つかりました。

今後、このようなことが繰り返されないよう巡視等に取り組んで参ります。